

\*取り付ける前に必ずお読み頂き、内容をよく理解して正しくお使い下さい。

\*この取り扱い説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管して下さい。

\*この商品もしくはこの商品を取り付けた車輛を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取り扱い説明書も併せてお渡し下さい。

<b>NISSIN</b> <b>セミラジアルマスターシリンダー</b>	商品 NO. (ボディ色/レバー色) <b>62411 (ブラック/ブラック)</b>
---	--

この度はデイトナ「NISSIN セミラジアルマスターシリンダー (19mm)」をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前には必ずこの取り扱い説明書をよくお読み下さい。また、取り付け前に必ず商品の内容をお確かめ下さい。なお、万一お気づきの点がございましたら、お買い求めの販売店にご相談ください。

## 〈特徴〉

- 横型マスターよりダイレクトなタッチ感を実現。
- 6段階レバーアジャスト機構。
- ネイキッド車用の専用タンクステーを付属。
- ピストンサイズはφ19を採用。形状はVTR1000SP2やCBR954RRの純正と同じ斜め横型のセミラジアルマスターを採用。パワーレシオは純正の横型マスター5/8に近い値に設定。

## 〈商品内容〉

NO	パーツ名	サイズ (mm)	数量	NO	パーツ名	サイズ (mm)	数量
①	セミラジアルマスターシリンダー本体	ピストンφ19	1	⑨	リザーバータンク取付ボルト	M6 x 28	1
②	リザーバータンクASSY		1	⑩	リザーバータンクステー取付ボルト	M6 x 12	1
③	タンクステー	純正タイプ	1	⑪	ホルダーボルト	M6 x 20	2
④	ネイキッド車専用タンクステー	ネイキッド車用	1	⑫	フランジ付きナット	M6	1
⑤	マスターシリンダーホルダー		1	⑬	カラー	M6	1
⑥	バックミラーホルダー		1	⑭	ワッシャー		1
⑦	タンクホース		1	⑮	グロメット		1
⑧	ホースクランプ		2				

## 〈注意事項〉

- ・ この商品は、サイズが指定されています。適合キャリパー以外の車輛には使用しないで下さい。

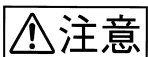
セミラジアルマスターの19mmは従来品（横型マスター）の5/8インチに相当します。



**警告**

サイズを間違えるとブレーキが効かず、追突や転倒等、大怪我や死亡事故につながる危険があります。

- ・ 取付可能ハンドル径は、22.2mmです。これ以外のハンドル径には適合しません。
- ・ バンジョーボルト（別売品）取付部は、M10 x P1.25です。
- ・ バンジョー取り付け部のガスケットは必ず新品に交換して下さい。
- ・ ブレーキフルードは、車輛メーカーの指定するものをご使用下さい。またブレーキフルードの取り扱い指示に従って下さい。



**注意**

ブレーキフルードが塗装面に付着すると塗装を傷めます。付着した場合はすぐに水で洗い流して下さい。また目や皮膚に付着した場合はすぐに水で洗い流して下さい。

- ・ 取付作業は設備の整ったオートバイ店、認証整備工場等の熟練した整備士に依頼して下さい。
- ・ 完全にエアが抜けるまで確実にエア抜き作業をして下さい。（未経験の方は必ず専門家に任せて下さい。）

適合サイズでもタッチが出ない場合はマスター、ホース、キャリパーの関連部品に必ずエアが入っています。

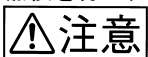


**警告**

エアが残ったままだとブレーキが効かず、追突や転倒等、大怪我や死亡事故につながる危険があります。

- ・ 走行前にレバーアジャストの位置を必ず調整して下さい。車輛によってはブレーキ液圧が十分に発生する前に、レバーがグリップに当たってしまう場合がございますので、レバーアジャスターの調整を行い、ブレーキ液圧が十分に発生し、尚且つレバーがグリップに接触しないレバー位置でご使用下さい。

- ・ 作業は必ず安全を確保し、車体を安定させて行って下さい。
- ・ 関連部品は、所定のトルクで適切に締める事が必要です。
- ・ 取り付け後約100km走行しましたら各部を点検してネジ部等の増し締めを行って下さい。その後は約500km毎に必ず点検を行い、同様の増し締めを行って下さい。



**注意**

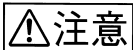
走行中に異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ、異常箇所を点検して下さい。

- ・ この商品は、予告無しに価格や仕様の変更をすることがあります。また、文中に御紹介した商品についても同様です。予め御了承下さい。
- ・ 機能、性能に関する補修部品は、従来品（横型マスター）と互換性は有りません。専用品をご使用下さい。

■ NISSINラジアルマスターとNISSIN横型マスター間のパワーレシオ表（油圧レシオ×レバーレシオ計算に基づく）

マスターシリンダー NISSINキャリパー		NISSIN ラジアルマスターシリンダー	NISSIN 横型マスターシリンダー	
		19mm	5/8インチ	14mm
シングルディスク	4POT (φ34+φ30)	46	45	58
	削り出し4POT (φ34+φ30)	46	45	58
	6POT (φ30+φ25+φ22)	46	45	58
	削り出し6POT (φ27+φ27+25)	46	46	59
ダブルディスク	4POT (φ34+φ30) × 2	91	90	116
	削り出し4POT (φ34+φ30) × 2	91	90	116
	6POT (φ30+φ25+φ22) × 2	92	90	116
	削り出し6POT (φ27+φ27+φ25) × 2	93	92	118

（シングルディスクでは45～46、ダブルディスクでは90～93が適正值となります。）

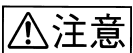


**注意** セミラジアルマスターの19mmは従来品（横型マスター）の5/8インチに相当します。

### ■ セミラジアルタイプエア抜き補足説明 ■



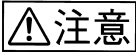
**警告** 未経験者による作業は、エア抜きの不完全によるブレーキの整備不良による事故の元となります。エア抜き作業は、必ず認証整備工場等の整備士に依頼し、確実に行ってください。



**注意** セミラジアルマスターの性能を充分にご確認して頂く為に、シリンダー内及びブレーキ系統内のエア抜きを完全に行ってください。必ず下記、及び別紙取扱説明書をよくお読みになってから作業をして下さい。

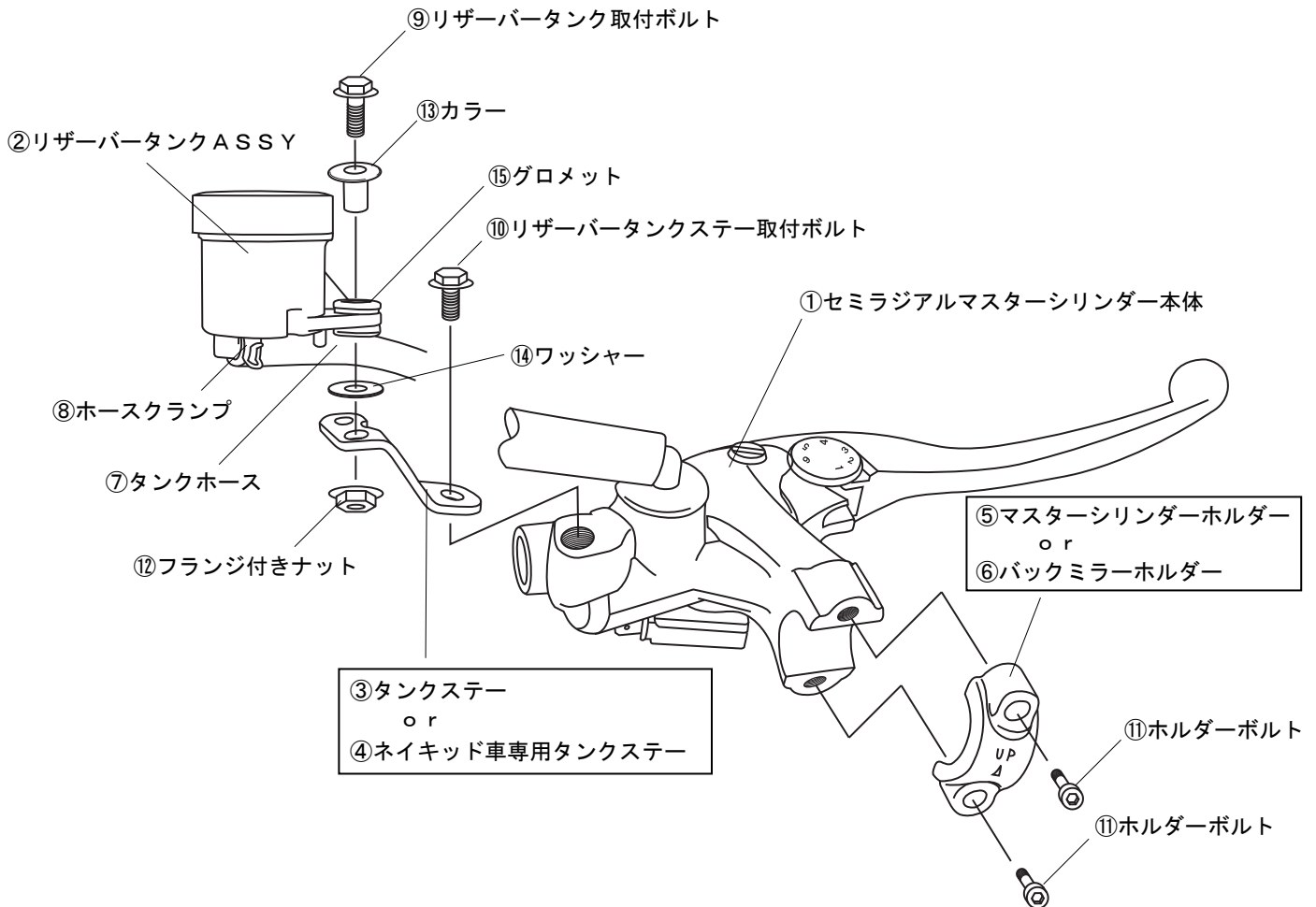
1. 純正マスターシリンダーから、バックミラー、ブレーキスイッチハーネスを接続部から外す。  
**※以下の作業はブレーキフルードが車体や衣服に付着しないよう、ウエス等で保護しながら作業を行ってください。また目や皮膚に付着した場合はすぐに水で洗い流して下さい。**
  2. 純正マスターシリンダーから、バンジョーボルト、ガスケット（×2）を外し、ブレーキホースを外します。
  3. 純正マスターシリンダーやブレーキホースのフルードが漏れないようにウエスなどでくるんでおきます。
  4. 純正マスターシリンダーの取付ボルトを外し、車体から取り外します。（純正マスターシリンダーのフルードは必ず抜いて、脱脂してから保管して下さい。）
  5. ①セミラジアルマスター本体を、⑤ミラーホルダー（又は⑥バックミラーホルダー）、六角穴付ボルト（M6×20/2ヶ）でハンドルバーに取り付けます。  
**※⑥バックミラーホルダーはM10×P1.25/右ネジタイプになります。**
  6. ブレーキスイッチハーネスを接続します。
  7. ③タンクステー（ネイキッド車に取付ける場合は④ネイキッド車専用タンクステーを使用）に⑨リザーバータンク取付ボルト、⑩フランジ付きナット、⑬カラー、⑭ワッシャー、⑮グロメットを使用し②リザーバータンクASSYを取り付けます。
  8. ①セミラジアルマスター本体に⑩リザーバータンクステー取付ボルトで③タンクステー（又は④ネイキッド車専用タンクステー）を固定します。②リザーバータンクASSYは傾き過ぎないように調整して下さい。
  9. ブレーキホースを①セミラジアルマスター本体へ取付けます。（使用できるバンジョーボルトのサイズは、M10×P1.25。締付トルク25～30N・mです。また、ガスケットは必ず新品をご使用下さい。）
  10. ②リザーバータンクのフタを外し、ブレーキフルードを注ぎます。
  11. ①セミラジアルマスターの⑦タンクホースを握ったり、レバーを何度かストロークさせたりして、セミラジアルマスター内のエアをリザーバータンク側へ逃がして下さい。
  12. レバーに多少、にぎりしろが出るまで行って下さい。  
**※エア抜き作業は必ず認証整備工場等の整備士に依頼し、確実に行ってください。使用するブレーキフルードは、メーカー指定品をお使い下さい。**
  13. エア抜きのホースをエアブリーダーにつなぎ、レバーを何度かストロークさせ、握った状態でエアブリーダーをゆるめ、エアが出てきたらまた締め付けます。この作業を完全にエアが抜けきるまで何回か行って下さい。（エア抜きが終了したらエアブリーダーを4～7N.mで締め付けてください。）  
**※上記作業でもエアが完全に抜けきらない場合はキャリパーに直接ブレーキフルードを押し込む、又は吸い出すタイプの特的工具を使用し、エアを完全に抜いて下さい。**

14. レバーを何度かストロークさせた後、タッチの確認、ブレーキの効きの確認を必ずして下さい。
15. セミラジアルマスター、キャリパーまた、その他の場所でブレーキフルードが付着している部分をブレーキクリーナーなどで脱脂して下さい。(ブレーキフルードは、塗装を傷める恐れがありますので、完全に取り除いて下さい。エアブリーダー内部などのブレーキフルードが残りやすい箇所は、入念に脱脂をして下さい。)
16. 最後にブレーキレバーを強く握った状態で、レバー位置が変化しない事、又、ブレーキホース取付部分からフルード漏れ等の事をご確認下さい。その他、取り付けに異常のないことを確認し、作業は完了です。取り付けは確実に行って下さい。また、走行中にネジ部等が緩まないように、規定トルクにて確実に締め付けて下さい。



**注意** 走行中に異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ、異常箇所の点検を行って下さい。マスターシリンダーのエア抜き状態のみならず、関連するブレーキ部品の具合によって、エアが抜けない事があります。キャリパーでは、4POTよりも6POTが構造的にエアが抜けない傾向がありますが、手順を理解した作業を行えば、手間はかかりますがエアは必ず抜けます。一連の作業でブレーキフルードを大量に使う場合も当然考えられますが、関連する部品のエア抜き(安全の為)には必要不可欠ですので、手間を惜しまず確実な作業を行って下さい。

### ■ 取り付け詳細図 ■



# どうしてもエアが抜けないお客さまにおすすめの

## エア抜きやり方です

### <利点>

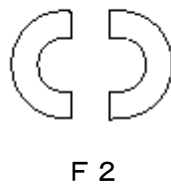
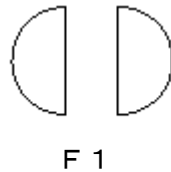
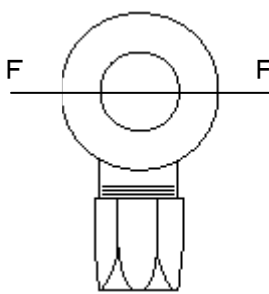
この方法で行った場合、あらかじめ、すべてのオイルラインにフルードを満たすことにより、フルードをスムーズに導びく事ができます。(よび水効果)

### <通常のエア抜きキット以外に用意するもの>

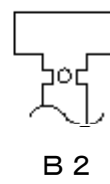
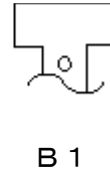
- ・オイル差し
- ・エアブリーダーと同径のホース  
(オイル差しとエアブリーダーにつなぎ、オイル差しに圧力をかけても外れない程度のもの)
- ・配管用シールテープ

### <作業を行なう前に、以下の事を調べて下さい>

- ① マスターシリンダーが機能していますか？  
マスタシリンダー本体のリザーバータンク内にブレーキフルードを入れ、バンジョーボルトの取付部を指で押さえます。レバーを握るときは指を離し穴を開けておき、レバーを戻すときは指で穴をふさぎます。ブレーキフルードが出てこなければ、マスターシリンダー本体に問題が有ります。
- ② ブレーキホースの取りまわし、オイルラインの詰まりはありませんか？  
ブレーキ（クラッチ）ホース、バンジョーボルトなどのオイルラインが詰まっていますとオイル差しでフルードを送る際に、ブレーキフルードが出にくくなります。  
また、バンジョーボルトとブレーキホースの組み合わせにも注意が必要です。(下図参照)  
(注；クラッチホースは、長さの関係上、基本的にエアは抜けづらい傾向にあります。)



バンジョーフィッティング断面



バンジョーボルト断面

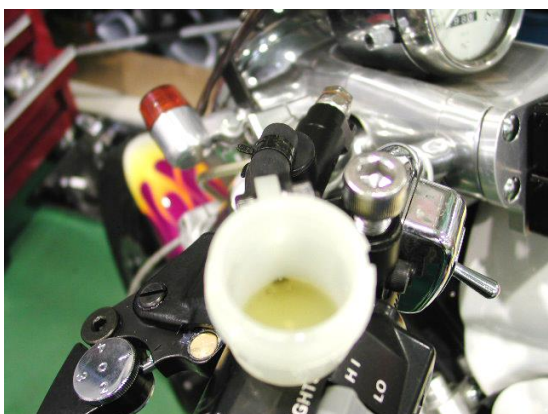
※F 1とB 1の組み合わせだと  
オイル通路が狭くなってしまう  
ため、なるべくF 2かB 2の  
形状のものと組み合わせて使用  
して下さい。

- ③ エアブリーダーボルトが錆びたり、変形したりしてオイル通路をふさいでいませんか？  
取り外して確認して下さい。オイルの通路をふさぐ原因となるエアブリーダーの錆び、オーバートルクによる変形がみられる場合は、直ちに交換して下さい。また、その際にエアブリーダー側ネジ山に白色テープ（配管用シールテープ）をまいてから組み付ければ、オイル差しで圧力をかけた時、にじみ防止になります。  
作業後は、エアブリーダー内部はブレーキフルードが残りやすいので、入念に脱脂を行って下さい。

## ＜エア抜き手順（クラッチの場合）＞



- ①市販のオイル差しにブレーキフルードを入れ、用意したホースをつなぎます。
- ②ホースをエアブリーダーにつなぎます。
- ③エアブリーダーをゆるめて、オイル差しをぎゅっとつまんでフルードを流し込みます。（写真左）



- ④しばらくするとマスターシリンダータンクからホース内のエアとともにブレーキフルードが出てきます。このときオイル差しを握り直しますとエアが混入しますので一気に流し込んで下さい。
- ⑤ブレーキフルードが穴よりも上にきたら、エアブリーダーを締め付け、ブレーキフルードをタンクに少し注ぎ足します。



- ⑥マスターシリンダーのタンクホースを指でつまんでタンクホース内のエアを上へ逃がします。  
この時点ですでに、レバーににぎりしろが出はじめます。この⑥の作業は、⑦通常のエア抜き作業の間も頻繁に行って下さい。リザーバータンクのホース内のエアをしっかり逃がさないと、そのエアを下へ送ってしまいます。



- ⑦通常通りエア抜きの作業を行い、完全にエアを抜きます。